

富士ロジテック

豊橋第二倉庫を開設、藤城運輸との連携を強化

トラックターミナル内の東大阪倉庫は化粧品に特化した倉庫に



豊橋第二倉庫は敷地全体をかさ上げし、倉庫建屋内に荷さばきエリアがある

富士ロジテック（本社・静岡市、鈴木庸介社長）では、豊橋

第二倉庫（愛知県豊橋市、4060平方メートル建て）、東大阪

倉庫（大阪府東大阪市、3884平方メートル建て）を開設した。豊橋第二倉庫は荷主のBCP（事業継続計画）対応が主な

目的の一つ。東大阪倉庫は近畿地区で化粧品に特化した倉庫として新設した。

これらの物流拠点の再編は、荷主のニーズに的確にこたえていくのが狙いだ。

富士ロジテックは豊橋地区で、パートナー企業である藤城運輸（本社・愛

知県田原市、藤城正行社長）の倉庫を活用し、包装容器メーカーおよびフィルムメーカーの物流業務を受託。藤城運輸に庫内オペレーションを委託している。

フィルムメーカーについては、海外生産品の輸入港を大阪港からエンドユーザーに近い名古屋港に変更することを富士ロジテックが提案。

これが受け入れられ、国内輸送コストとCO₂排出量の削減に貢献したことが同地区での業務拡大につながった。

今回、同フィルムメーカーが東日本大震災後のBCP強化の一環で、より災害リスクの少ない倉庫の立地・仕様を希望し、また、既存の倉庫では手狭になっていたため、藤城運輸が新設した豊橋第二倉庫に物流拠点を移転した。

豊橋第二倉庫は敷地全体をかさ上げしており、低床式倉庫でありながら津波対策は十分。倉庫建屋内に荷さばきエリアがあり、保管エリアと一体化しているため荒天時の荷役も可能。近隣工場をはじめ愛知県東部を中心とした物流拠点として最適な立地となっている。

新拠点開設により藤城運輸との連携が強化され、富士ロジテックが名古屋地区で受託した製薬会社向けの物流でも輸配送パートナーとして藤城運輸を起用し、安定した輸送力と品質・サービスの確保につながっている。

近畿地区ではこれまで門真倉庫（大阪府門真市）と古川橋倉庫（同）の2拠点体制で、門真倉庫では3つのブランドの化粧品、玩具、アパレル、通販等、古川橋倉庫では断熱材メーカーの物流をメインにこのほかペットフード、ソーラーパネル等を扱っていた。

今回、東大阪

トラックターミナル内に東大阪倉庫を確保。化粧品製造業の許可を取得し、4～5月にかけて門真倉庫の化粧品を東大阪倉庫に移転した。同倉庫は30日先に特積み会社の荷さばき施設があ



東大阪トラックT内に確保した東大阪倉庫

り、スムーズな配送手配が可能になっている。
なお、古川橋倉庫の貨物は門真倉庫に移転し、古川橋倉庫については食品卸に賃貸した。門真倉庫については多種多様な貨物を扱いつつ、再度、化粧品もターゲットにしており、将来的には門真倉庫と東大阪倉庫の統合も視野に入れている。

富士ロジテックでは西日本事業本部が管轄する近畿地区で化粧品、名古屋地区で医薬品の物流業務を受託しているほか、東京に本拠を置く物流企画部でも医療機器の案件獲得に力を入れ、東名大の主要エリアで高付加価値マーケットの開拓を進めている。